



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第77号(2010年8月13日)

「厳選して投資をすること」

現在足元の日本経済は米欧の景気減速懸念に加え、対ドルや、対ユーロで円高が進行し、また長期金利が1%を下回るなど、一層の景気の下振れ懸念がささやかれております。そして政局の不透明感などもあり、さらに多くの不透明要因が存在していると連日報道されています。そのような中でTOPIXや日経平均株価などの指数が、今後上昇していくことをなかなかイメージできないのもある意味当たり前のことかもしれません。

しかしながら、8月1日付の日本経済新聞によると7月30日までに決算を発表した3月期決算企業（金融・新興3市場を除く）559社の2010年4～6月期決算は売上高が前年同期比約14%増加し、また経常利益が前年同期に比べて約5倍に増加し、2008年のリーマン・ショック前の9割の水準まで業績が回復したとのことです。この要因として、リーマン・ショック以降の不況に対し、各企業がコスト削減等を行なった結果、収益構造がスリム化したことでもあります。新興国向け需要が大きく拡大したことも要因の一つとして挙げられるようです。中長期的に見れば新興国の経済成長は今後も高い水準で継続していく可能性が高いと考えられ、このような企業業績の傾向は今後も続く可能性があります。

このような環境で、私どもが考える資産運用における選択肢の一つは、日本経済全体の成長を追う（例えばインデックス運用など）ではなく、今後成長を遂げると考えられる企業を厳選して投資を行なうことではないかと考えております。新興国のように国全体が高い経済成長を遂げている市場においては、その国の株式市場全体の時価総額が増加する可能性が高く、個別銘柄で銘柄選択を行う手間と時間をかけるよりも、インデックス運用は効率的な資産運用の一つと考えられますが、その反面新興国は価格の変動リスクが高く資産運用における主要な投資対象にはなりにくいと考えます。一方日本を含め先進国は国全体が今後更に大きな成長を遂げることは難しいと考えられますので、インデックス運用を行なっても新興国よりは高い収益を望めないと考えます。

そういった中で、日本企業の中から新興国など海外で今後売り上げを伸ばしていける企業を厳選して投資を行なうことは非常に有効だと思われれます。そのような日本株への投資は為替のリスクを取らずに（海外部門の売上や利益の変動といったことによる間接的な影響はあります）新興国の成長の恩恵を受けることができると考えられます。そして既に海外で大きく売上を上げている企業ではなく、これから売上を伸ばす可能性がある企業のほうがより大きな成長が見込めると考えております。

（注）本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。